メッセージ　9

祝福

聖書：創 47:7，10．48:9，14-16，20．
ヘブル 5:6．7:7．11:21．民 6:22-27．Ⅱコリント 13:14

Ⅰ．造り変えられるとは、わたしたちの天然の命の中で新陳代謝的に変えられることです。円熟するとは、わたしたちを変える神聖な命で満たされることです。祝福は命の満ちあふれです：

A．ヤコブはヨセフの二人の息子を祝福しようとしていた時、彼の経験の中の三一の神を語りました――創 48:9，15-16：

1．アブラハムとイサクが御前に歩いた神は、御父です。

2．「この日まで、わたし（ヤコブ）の全生涯にわたって」ヤコブを牧養された神は、霊です。

3．すべての苦難から彼を贖った御使いは、御子です。

B．ヤコブは、自分の運命と存在が牧養する神の御手の中に完全にあることを認識しました。三一の神を経験することは、わたしたちが三一の神をもって人を祝福するためです。

Ⅱ．祝福の意義は、命における人の円熟を通して、神が命としてあふれ流れるということです：

A．神は人の経路がなければご自身を他の人の中へと流し込むことはできません。神が経路として唯一用いることができる人は、神で浸透され飽和された人です――ピリピ 1:23-25。

B．命における円熟は、命としての神で満たされる事柄です。わたしたちは神に満ちているとき、神のあふれ流れを持ち、こうしてわたしたちが会うあらゆる人を祝福することができます――詩歌 655。

Ⅲ．霊的な経験によれば、ヤコブとヨセフは一人の人です。ヨセフは、円熟したイスラエルの、王として支配する面、すなわちヤコブの円熟した性質におけるキリストの構成を表します。完全な方であるキリストで構成された円熟した聖徒として、ヤコブはヨセフを通して王として支配しました――ガラテヤ 41:39-44．ヘブル 6:1 前半．ガラテヤ 6:8．5:22-23：

A．ヨセフによって予表される、王として支配する面は、わたしたちの存在の中へと構成されたキリストです――4:19．ローマ 5:17。

B．円熟した命の、王として支配する面は、常に主の臨在を享受する生活です。主の臨在のあるところにはどこでも、権威、統治する力があります――創 39:2-5，21-23。

Ⅳ．ヤコブが円熟したことの最も強いしるしは、彼が人を祝福したということでした：

A．ヤコブがエジプトに到着して行なった最初の事は、パロを祝福することでした（創 47:7，10）。ヘブル第 7 章 7 節によれば、「小さな者が大きな者によって祝福され」ます。これは、神の目にヤコブがパロよりも大きな者であったことの証明です。

B．わたしたちは人を祝福するために命で満たされて満ちあふれ、命が彼らにあふれ流れるようにしなければなりません。ヤコブの円熟した命は、祝福で満たされていました。彼は、パロ、ヨセフの二人の息子（創 48:8-20）、自分自身の息子たちを祝福

しました（49:1-28）。ヤコブの息子たちに対するこれらの祝福は、イスラエルの十二部族の運命と関係のある予言でした。

Ⅴ．祝福の原則は、大きな者が小さな者を祝福するということです――ヘブル 7:7：

A．大きな者であるか小さな者であるかは、年齢の事柄ではなく、キリストの度量の事柄です。わたしたちが大きな者であるか小さな者であるかは、わたしたちが持っているキリストの度量によります。

B．バプテスマのヨハネはキリストにとても近かったのですが、内側にキリストを持っていませんでした。天の王国にいる人たちはキリストに近いだけでなく、内側にキリストを持っています。こういうわけで、天の王国で最も小さい者も、ヨハネよりは大きいのです――マタイ 11:11。

C．もしわたしたちがキリストをさらに多く持っていることによって他の人より大きいなら、そのとき彼らを祝福する資格があります。なぜなら、大きな者は常に小さな者を祝福するからです。

D．人を祝福するとは、キリストを彼らに供給することを意味します。わたしたちは、自分があずかり享受するキリストをもって人々を祝福します。もしわたしたちがキリストをさらに享受するなら、他の人に供給するためのキリストをさらに持つようになります。

Ⅵ．聖書の中にある祝福の最初の事例は、メルキゼデクがアブラハムを祝福したことです（創 14:18-20）。メルキゼデクはキリストの予表です（ヘブル 5:6）：

A．祝福は神のあふれ流れであり、このあふれ流れは祭司を通して人々にもたらされます。わたしたちはみな祭司（啓 1:6．Ⅰペテロ 2:5，9）、すなわち人々を神にもたらす者となる必要があります。

B．もしわたしたちが人を祝福しようとするなら、自分自身が神に近づかなければなりません。人々が神の祝福を必要としているのは、彼らが神から遠く離れているからです。

C．祭司は神と人々との間の距離を取り除きます。彼は遠く離れている人たちを神の臨在の中へともたらします――参照、出 28:9-12，15-21。

D．わたしたちが祭司によって祝福される前、わたしたちと神との間には距離があるかもしれません。しかし、祭司がわたしたちを祝福した後に、この距離は取り去られて、わたしたちは神の臨在の中へともたらされ、神を享受することにあずかるようになります。

Ⅶ．民数記第 6 章 22 節から 27 節で、わたしたちは祭司による祝福の模範を見ます。この祝福は旧約の祝福でも新約の祝福でもありません。そうではなく、それは三一の神の永遠の祝福、すなわち、三一の神が神聖な三一の中でご自身をわたしたちの中へと分与して、わたしたちの享受になることです：

A．「エホバがあなたを祝福し、あなたを守られますように」は、御父のことを言っています――民 6:24：

1．御父は彼の愛において、あらゆる方法で、またあらゆる面でわたしたちを祝福しており（参照、エペソ 1:3）、彼は彼の力において、あらゆる方法で、またあらゆる面でわたしたちを守っておられます（参照、ヨハネ 17:11，15．Ⅰペテロ 1:5）。

2．主は、御父が御名の中でわたしたちを守ってくださるように祈りました（ヨハネ

17:11）。これは分与する三一の神の中にわたしたちを保つことです。主イエスは、御父がわたしたちをあの邪悪な者から守ってくださるように続けて祈りました（15 節）。

3．わたしたちは、三一の神の分与の中に完全に守られるという祝福を求めて、またあの邪悪な者から完全に守られるという祝福を求めて祈るべきです。これは何という祝福でしょう！

B．「エホバが御顔（face）をあなたの上に輝かし、あなたに対して恵み深くありますように」は、御子のことを言っています――民 6:25：

1．ルカ第 1 章 78 節で、主イエスが生まれようとしていたとき、ザカリヤは「昇る太陽が高い所からわたしたちを訪れ……」と予言しました。昇る太陽は神聖な三一における御子です。これが暗示しているのは、神が肉体と成って、輝く方法においてご自身をわたしたちに示すということです――マタイ 4:16．ヨハネ 8:12。

2．民数記第 6 章 25 節の「御顔」という言葉は、臨在を表徴します。御子キリストは御顔をわたしたちの上に輝かす方として、見えない神の見える臨在です――Ⅱペテロ 1:16-18．マタイ 17:1-2。

3．民数記第 6 章 25 節は、エホバが御顔をわたしたちの上に輝かすことについて語っているだけではなく、エホバがわたしたちに対して恵み深くあることについても語っています。これら二つの点を合わせると、ヨハネ第 1 章 14 節と 16 節から 17 節に等しいのです。

4．神が肉体と成ることは彼の臨在の輝きであり、恵みがこの輝きと共にありました。この恵みは主イエス・キリストの恵みであり、実はキリストご自身です――Ⅱコリント 13:14。

C．「エホバが御顔（countenance）をあなたに上げ、あなたに平安を与えられますように」は、その霊のことを言っています――民 6:26：

1．顔（face）はその人の臨在を示し、顔（countenance）はその人の表情を示します。顔（countenance）を人に上げるとは、わたしたちがその人に対して確証し、保証し、約束して、あらゆることを与えることを意味します。

2．イエスは神の御顔（face）として来られました。聖霊は神の御顔（countenance）として来られます。もしわたしたちが聖霊を悲しませるなら、神の御顔（countenance）は伏せられますが（エペソ 4:30）、わたしたちが聖霊に従順になるなら、神はわたしたちに対して幸いになり、神の御顔を上げて、わたしたちに対して確証し、保証し、確約し、約束し、あらゆることを与えます。

Ⅷ．使徒パウロの祝福はⅡコリント第 13 章 14 節において見られます――「主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊の交わりとが、あなたがた一同と共にありますように」：

A．使徒パウロの祝福において、三一の神は人々に来て彼らの享受となります。パウロは人々を神の臨在の中へともたらしただけではなく、神を彼らの中へともたらしました。

B．一方で、人を祝福することは彼らを神の臨在の中へともたらすことです。もう一方で、人を祝福することは神を愛、恵み、交わりとして彼らの中へともたらすことです。それは、彼らが三一の神を、すなわち父、子、霊を享受することができるため

です。

C．愛、恵み、交わりは、神がわたしたちの享受となるための三つの段階です。すなわち、愛は内側のものであり、恵みは表現された愛であり、交わりは恵みがわたしたちの中へと伝達されることです。

D．神の愛は源です。なぜなら、神は起源であるからです。主の恵みは神の愛の経路です。なぜなら、主は神の表現であるからです。その霊の交わりは、主の恵みを神の愛と共に分け与えることです。なぜなら、その霊は主を神と共に伝達することであるからです。それはわたしたちが三一の神を、すなわち父、子、聖霊をその神聖な美徳と共に経験し、享受するためです。

E．聖書の中の神聖な三一の神聖な啓示は、神学上の研究のためではなく、神がどのようにして彼の奥義的で驚くべき神聖な三一の中で、ご自身を彼の選ばれた民の中へと分与するかを把握するためです。それは、使徒がコリントの信者たちを祝福したことによって示されているように、わたしたちが彼の選ばれ、贖われた人々として、手順を経た三一の神に、今も、また永遠にあずかり、経験し、享受し、所有するためです。

Ⅸ．ヤコブの押しのける手は最終的に祝福する手となりました――創 25:26．47:7，10．48:14-16．**ヘブル** 11:21：

A．わたしたちは創世記第 25 章で、ヤコブが彼の母の胎内にいたときでさえ押しのけ始めたことを見ますが、創世記第 47 章と第 48 章では、これら二つの押しのける手が祝福する手となって、人々を神の臨在の中へともたらし、神を彼らの中へと供給していたのを見ます。それは彼らが神を享受するためです。

B．押しのける者、かかとをつかむ者が、当時の地上で最も大いなる者となりました。彼がパロを祝福することができたのは、パロよりも大いなる者となったからです。彼は命の方法によってこのような人となりました。

C．わたしたちは命における成長と命における円熟を必要とします。それはわたしたちがキリストで満たされて、人を祝福することができる者たちとなるためです。

Ⅹ．ヤコブは、創世記第 49 章で、彼の十二人の息子たちに関して祝福をもって予言したとき、神・人、すなわち神で満たされ、構成され、浸透された人であり、さらには神で再構築された人でした。ヤコブが考えたことは何であれ、神の考えであり、彼が言い表した意見は何であれ、神の意見でした――参照、Ⅰコリント 7:10，12，25，40：

A．わたしたちは祝福をもって預言するために、神と神の心の願いと神の定められた御旨を認識しなければなりません。

B．わたしたちは祝福をもって預言するために、人々を認識しなければなりません。すなわち、わたしたちはかかわっているあらゆる人の実際の状況を認識しなければなりません。

C．わたしたちは祝福をもって預言するために、キリストの豊富で満ちていなければなりません。

D．わたしたちは祝福をもって預言するために、力強くて活発な霊を持たなければなりません。

©2026 Living Stream Ministry